

浪速タンカー株式会社

船員目指す高校生が内航タンカー船を見学

12 月 9 日の 10 時からコスモ石油株式会社・堺製油所内において、浪速タンカー株式会社主催の内航タンカー見学会が開催され、神奈川県立海洋科学高等学校の生徒たちが内航タンカー船の仕事などを学んだ。

この見学会は船員職業を目指す生徒たちに内航タンカーの仕事を知ってもらうため行われ、神奈川県立海洋科学高等学校の生徒 17 人、教諭 3 人の総勢 20 人が参加した。

内航タンカー船の船内見学では、乗船してから航海計器や荷役機器装置、機関室、居住スペース、船員の業務内容など現役船員から説明を受け、実際に各機器の操作などもアドリブで体験した。

見学会のはじめに、コスモ石油株式会社堺製油所本館で、浪速タンカー株式会社の嶋村賢治取締役船員部長から「船員不足が深刻な昨今において、M/O 船を増し、荷役機器のバルブを遠隔操作にするなど、さまざまな改善がなされている。内航タンカー船の現場を実際に見学してその魅力を感じてほしい」とあいさつがなされた。

その後、製油所職員から見学時の注意事項ならびに会社からの説明を受け、専用バスに乗り込み、製油所内の施設を見学し、その後「第一浪速丸」(3834G/T)に乗船した。

船内では生徒が三班に分かれ、船橋、荷役制御室、機関室、居住区、甲板上を見学した。各所においては、乗組員から航海計器や荷役設備、機関部の設備に関して説明がなされ、生徒たちはその説明を熱心に聞いていた。また、多くの質問が飛ぶようすが見受けられた。

その他にも船内作業の体験に模した見学として、国際信号旗掲揚や係船索のコイルダウン、パソコンでの荷役バルブの操作などを生徒たちが学び、内航タンカーに対する理解を深めた。船内各所の見学終了後は、本船の司厨長からカレーライスを振る舞われ堪能した。

最後に生徒代表から見学会の開催に対する感謝の言葉が述べられるとともに「内航タンカー船の船内設備や船員労働の内情など、貴重な知識を知ることができた。ここで得た知識を就職活動に活かしたい」と意気込みが述べられ、見学会を終了した。

「海員だより」